

あしがら農の会

通信 4月号

第 108号 2011年4月19日発行

発行 NPO 法人 あしがら農の会

ホームページ <http://nounokai.com/>

代表 松本 邦裕 090-1735-3748(携帯)

編集 鈴木 淳子 0465-72-5243(TEL/FAX)

E-mail yamanohatake@ac.auone-net.jp

地場 旬 自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO 法人化)

地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

農産物の宅配:会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給のための野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果樹、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

田んぼの会:現在約100家族以上が、あしがら平野の13ヶ所で自給用の稲を育てています。

お茶の会:山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

大豆・味噌の会:大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴作りから味噌作りを行っています。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

生産者紹介コーナー ↓ JUNKAN 農園 ↓



こんにちは！足柄平野で農業を始めて7年目を迎える Junkan 農園です！

水田を7反、畑を1町5反程借りて耕作しています。開成町に住み、農地は主に大井町赤田、開成町延沢、

南足柄市苧野の3ヶ所にあります。

もともと、農業を志したきっかけは、学生時代に、海外(インドネシアやマレーシア、フィリピン、タイ)の農村にホームステイして、人々の生活に力強さを感じたことや、日本の低い自給率への疑問に対する、行動でした。いざ就農してみると、生活して行くだけでやっとの毎日です。近所で百姓をやっている昭和9年生まれのおじさんがよくおっしゃっています。「農業は大変だよ。だって肥料が高いでしょ、農薬が高い、機械が高い、燃料が高い…、けど品物は安いんだから…」と。言いつつも、おじさんはどんな日でも必ず畑に現れ、何かしら働いていて、根っからの農民なのだと尊敬しています。

よく昔の話を質問すると、馬で耕していた田を耕していた話や、水路にいた魚介類の話、山にカヤをとりに行った話などを聞くと、少し前まで、そんな光景が当たり前だったのになど、残念でなりません。

最近、大雨のたびに、酒匂川の濁流が何日も続きますが、とても心配です。山の土が、引越しを始めたのでしょうか？そんな声が聞こえてくる気がします。自然にはいつも創造の意思(エネルギー)が働いているように思います。

自然の意思に反することのない、私達人間の暮らし方があるのでしょうか？ある本に、「土こそが、本当の意味での世界遺産である。」と、書かれてありました。素晴らしい発想ですよ！

家族みんなで畑へ行く事が楽しみです。親は畑仕事を、福太郎は菜の花を夢中で摘んでいます。大地が子供達を育み、見守ってくれている事でしょう。大地から糧を頂く暮らしは、本当に有難いと思います。

写真は、2歳半の福太郎、3月に生まれた晴樹(はるき)母 早保、父 大樹です。これからも、宜しくお願いします。

福島第一原発事故について

はじめまして。AKI農園の清水と申します。栃木県宇都宮市に就農して1年、まだまだひよっこの有機農家です。

今も福島第一原発の復旧作業は一進一退の状況のようで、いつ収束するのか私たち一般市民には見当つかない状況です。栃木県も出荷を自粛した有機農家が何軒もあります。私も事態が落ち着き、土壌汚染がどれほどなのか判明するまでは出荷を休止しています。

今週、栃木県はこれまで放射能モニタリング測定で基準値以上だった露地ホウレン草やかき菜でも暫定基準値以下の結果となり出荷制限が解除されました。また水田土壌の汚染状況の調査結果を公表し、基準値以下だったとのこと。これでほっとしている農家は多いでしょう。田植の準備も始められると胸をなでおろしているかともいます。

しかし放射性物質は今も漏れ続けています。これで安心と言える状況ではまだないのではないかと思います。引き続き土壌汚染の調査は続けていくべきなのに、県知事はこれ以上の土壌汚染調査はしないと発表したようです。これで「栃木の米・野菜は安全です」と胸張って言えるのかと疑ってしまいます。

百姓として畑に立ち、耕し、種をまく。こんな当たり前のことができない。いつまで放射性物質は降り続くのか判明しない限り、畑を耕すこともできず(耕せば放射性物質を地中深く埋めてしまいます)、種を蒔くこともできず、さらには今ある野菜を取り除くこともできず、ハウス内で苗を育てることしかできません。宇都宮に来て1年、ビニールハウスも建ち、2年目からはさらに頑張っていこうと思っていた矢先のこと、本当に悔しくてなりません。

今回の事故に対し栃木だけでなく全国の有機農家で今後の対策を考えていかなければと思っています。原発の中止を訴える運動や原発の危険性をもっと詳しく多くの人に理解してもらえるような講演会、あまり電気に頼らないライフスタイルの提案や

自然エネルギーを活用した発電の促進など、やるべきことはたくさんあるような気がします。

また自分たちのライフスタイルを見直すことも大事です。私自身、電気の豊富にある環境に甘え、これまでこの便利な生活を享受してきた一人です。青年海外協力隊で派遣されていた途上国では計画停電の中で生活していましたが、それでもそれほど不便を感じませんでした。そこに住む人達もそれを当り前と受け入れ、夜に電気がつく度に子供たちの歓声が聞こえる毎日でした。私たちは電気のありがたさを忘れていたのではないかと思います。

そして有機農家として自然とともに共生する生き方、自然のサイクルの中で感謝の気持ちを持って生きていくことをきちんと考え実践していくこと、それをまわりの人々に伝えていくことが何よりも大事だと思っています。

今回、私の友人の相原さんの紹介で、「あしがら農の会」さんの通信に今の率直な想いを載せていただけたこと、本当に感謝いたします。今回の原発事故、起きてしまったことにただ悲観するだけでなく、前向きにこれからのことを考え実践していくことを多くの方々と共有していきたいと思っています。

AKI農園 清水彰浩

大地震、大津波、原発大事故・・・今現在も進行形の大災害。亡くなられた多くの方、ご遺族、避難を余儀なくされている方々にはご冥福、お見舞い、これからのいち早い復興をお祈りするしかできない自分。そんな自分でも、今までの暮らし、これから続く暮らしを、真剣に見つめ直し、深く深く考えることはできる。足るを知る喜び、感謝をする喜び、謙虚になれる喜び。人類の英知を結集して築いた防波堤、安全クリーンな原発エネルギー。大自然の前にはいとも簡単に・・・どれくらい電気があれば安心して心豊かな暮らしが出来るのだろうか？

日に日に便利になっていく世の中。どこまで便利になれば満足できる？便利を手に入れることでどれほどの豊かさを実感できる？何を失い、どんなリスクが待っている？程を知ることによりどれほどの豊かさを実感し、どんな安心を得られる？不便さに心を打ち砕かれるのか？たぶん人それぞれなのかもしれない・・・でも自分の満足のために人を傷つけることは許されないはずだろう。

松本邦裕(なんくる農園)

僕は就農前から新潟中越地震や福岡玄海灘沖を群馬、島根県で体験したので、研修中から「世界中で絶対安全な場所など無いのだから、どこで何をすれば満足できるか」を思っていて、そして今も神奈川の農家であり続けたいと思っています。

また今起きているさまざまな問題も、これまでの震災時に発生していたら越えられなかったかもしれない事が越えられるタイミングで発生していると、省エネ家電の普及や太陽光発電やより効率的な配電技術などのアイデアが実用間近まで来ていた事。計画停電中も普段は生活にエコを取り入れていない知人達も日常生活でロウソクの明かりや徒歩、自転車の生活を楽しむ様子をネット上で公開していた事などから考えていて、諦めずに日々を生きていこうとおもいます。 ののくさ農場 斎藤秀彦

原発は政府や東電が起こした人災だ、デモをメディアで取り上げないのはおかしい、選挙で応援した人が当選しなくて残念だ、などと言いたい気持ちも分からなくはないですが、落ち込みすぎたり、怒りすぎるのは、ちょっとナイーブかなと。一度や二度のアクションで何かが変わるほど簡単なものではないはずで、明治維新でさえ 20 年近く、倒幕運動も含めればもっと長い期間がかかりました。それと同じく長い間、関わり続ける必要がある問題なんでしょう。

地震と津波自体は天災ですが、それ以降のことは特定の誰かが起こした問題ではなく、僕らの関心・力不足が招いた結果であるわけで、それを受け止めた上で、それぞれがそれぞれの立場でできることをやり続けていくのがいいのでしょう。実際、多くの方が問題解決に向け、多様な関わり方をされていて、それに希望を感じています。さらに情報化社会らしい戦略・戦術で課題解決に向け継続的に取り組んでいきたいと思います。山居是文

RQ として被災地に入っています。様々協力して下さった方々へ報告を兼ねて、活動状況を載せたかったのですが、誌面の都合で叶いませんでした。15日からの現地入りは、温泉送迎支援の次のステップへ向けて話を詰める事が私の大きな



仕事になりそうです。 鈴木淳子

「節電生活」

- 1、 温水便座の保温を切る。
- 2、 契約電力を10A下げる。
- 3、 冷房、暖房を1度控える。
- 4、 待機電力を止める。
- 5、 保温ポットを魔法瓶にする。
- 6、 湯たんぽを使う。
- 7、 電気炊飯器はガスに変える。
- 8、 緑のカーテンを栽培する。
- 9、 昔の暮らしを思い出す。
- 10、 生ごみの堆肥化。
- 11、 紙は燃やせるごみに出さない。
- 12、 エレベーターは使わない。
- 13、 旬の野菜を食べる。
- 14、 どんどん加えてください。

笹村農鶏園

新永塚田んぼ

2011.4.11 山條

中原さんを中心に鎌倉組4家族、永塚組4家族で構成されています。そのほか草取り、田植え、稲刈りと人手が多くいる作業の時は農の会の皆さんに呼びかけていつもぎやかに楽しく作業を行っております。いつも中原さんが作業の手順、場所、持ちもの等をきめ細かく指示してくれるので会員の私達はその場所に行くだけで、いいのです。

今年も3/31(日)種籾の浸種、

3/27(日)、4/3(日)苗土作り

4/9(土)苗床の代かき

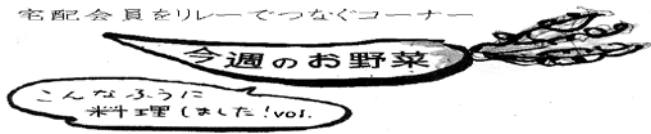
4/10(日)播種

4/17~5月田起し(2回)

6/4(土)代かき

6/5(日)田植え

と作業が続きますが、中原さんが耕耘機の準備、修理、用具の準備、(ビニール、支柱の購入、杭)などもしてくれて作業はいつもスムーズです。今年もお米がたくさん収穫できるといいですね。暑い中での草取りもまっていますが、みなさんがんばりましょう!



【そらやさんのお野菜】 松田町 日吉三津子

春のお野菜は、エネルギー一杯なので、手で取れる軟らかい部分（花や若い芽）はこっそり殆ど、生で頂いています。茎の部分はさっと茹でておひたしにします。

大根は、シンプルに茹でて、ゆず味噌で、またはお味噌汁が基本です。

特にお勧め簡単レシピは、蕪をうすくスライスして、海苔をぱらぱらかけます。そして、ちょっと良いオリーブオイルと、お酢（ワインビネガーなどもお勧め）を適当にかけます。そこにお醤油をたらりとかけて、シンプルイタリアンサラダです。和風のお味噌がとっても良い風味をかもし出してくれます。是非お試しください。

野菜よもやま話 ～キャベツの巻～



キャベツの旬はいつですか？ときかれましたら、春かなあ冬かなあと考えてしまいます。足柄地域の露地栽培ではキャベツの種播き時期は年に3回あります。2～3月に播いて初夏に穫る作型、7～8月に播いて冬に穫る作型、9～10月に播いて春に穫る作型です。特に今頃穫れるものは春キャベツと呼ばれて、柔らかいのが売りでサラダ向き。冬のは寒さに当たって甘味があるのが売りで煮込み料理向きだったりします。無農薬栽培では、蝶々が飛ばない時期に育ってくれる春キャベツが作りやすいといわれていますが、餌が少ない時期のひよ鳥に結構食べられてしまうので、やはりネットを掛けないと難しいです。今年の冬は乾燥が続いて、寒さも厳しかったので、春キャベツの出来はイマイチのようですが、今が旬の一つです。

原産地はヨーロッパで日本には江戸時代に観賞用としてオランダから入ってきて食用に作られるようになったのは明治にはいつからですが、今では、大根に次いで作付け面積も収穫量も多い野菜です。栄養的にはビタミン C が豊富で、キャベツから発見されたビタミン U は整腸作用があるといわれています。また、最近のがん予防にも効果があると注目されています。

そらや 作美尚子

今年の種まき

金井島グループ山北田んぼ 山下良子

今年は親子田んぼ（2反6畝）と山北田んぼ（2反）は古巣（金井島）に戻りました。耕耘はそらやさんにして頂きましたが親子と山北の畝の中が違い手数を掛けてしまいました。水平を出す機械の手当てが出来なかったもので、水盛缶という物を使いましたが、これがまた優れものなのです。昔の人の知恵には驚きです。Sママは張りきり、Yさんちの小学生の双子ちゃんの姉妹もお手伝い。出来た畝には三者三様の秘密兵器。親子は馬糞、山北は鶏糞、そらやさんは米ヌカ。親子はラブシート、山北は穴あきビニルトンネル、そらやさんはこれから芽出しをしてから・・・、はたして結果は如何に？地主さんも私達の苗床作りを見て安心したような・・・笑顔でした。土作りもそれぞれ。親子は近藤さんの圃場で篩い山北のハウスで乾かしました。山北は我が家の斜面から赤土を取り、また桜の木の下の腐葉土らしき土を取り、ハウスで乾かし篩いました。親子は薫炭・・・ドラム缶約1本（200リットル）、山北は薫炭・・・120リットル、親子は9時過ぎから昼までで150枚のトレーが出来ました。昼御飯の時間も惜しんで、苗田に並べ、ラブシートを掛けて終了。

山北は何故か9時から夕方6時まで。人手が足りなくまた種に黒米が混ざっていて、それを取り除いていた事、篩いを当日に掛けたからですね。何はともあれ、穴あきビニルを掛け終え水を入れ、水路に水が回るのを確かめた喜びと今年も始まる事の期待にワクワク！山北田んぼ2反には下記のような苗土が必要量（薫炭も含む）でした。

植え方は畝幅27cm、株間20～25cm

トレー 100枚・・・260リットル 苗箱 24枚・・・80リットル 覆土 100リットル

覆土量が分からずに適当に決めたのですが440リットルが目安でした。終盤に足りないのでは？そこは用意周到、多めに篩っていたので安心でした。目安の量があると安心です。20リットルバケツが沢山ある事も助かりました。

【お知らせ】

●5月定例会 2011年5月14日(土)

場所:ブルーベリーガーデン旭

時間:18時半～21時 ※司会:新永塚

●小田原プチ朝市

4月24日 詳細は、小田原まちなか市場公式ブログ

●茶摘み

5月7日 5月11日予定

【通信が置いてあるお店】

菜こんたん/ポタジェララ/カフェブラスサム/ IN NATURAL/バックシェッターベ IMAYA/ 季去来亭/アイラナ/えれんな ごっそ ショップ/Capace/がらんどろ/湘南らーどん